

宇電懇 ニュース NO27

1974. 7. 20 宇宙電波懇談会事務局
(名大理物理内)

1 宇電懇総会及び運営委員会が5月16日東大理2号館講堂に
おいて開かれた。

総会議事録

1) 委員長あいさつ

2) オ2期の活動報告及びオ3期の方針

シンポ開催 シンポの集録発行 ニュース発行

大型電波望遠鏡計画の推進

本年度のシンポジウムのテーマ 「干涉計による天文学」

3) 新事務局 名古屋大学 理学部 物理内 決定

4) 会計報告 (別項参照)

5) 運営委員の改選

宇電懇ニュース NO26 で保留になっていた同席者の取扱いについては
今回同席者はすべて入れることにした。

この結果 運営委員は 田中^{*}春, 森本, 赤羽, 川尻, 小川, 田原, 石黒, 河野
柿沼, 甲斐, 高窪 の11名となった (*は運営委員長)

6) 大型電波望遠鏡に関する報告

大型宇宙電波望遠鏡計画の進捗状況について

宇宙ニュース NO26 で「保留」に留まっていた同業者の取扱いは
今回 同業者はすべて入れることにした。

この結果 運営委員は 田中^{*}, 森本, 赤羽, 川尻, 小川, 田原, 石黒, 河野
柿沼, 甲斐, 高窪 の 11 名と決った (*は運営委員長)

へ) 大型電波望遠鏡に関する報告

大型宇宙電波望遠鏡 50 年度概算要求としての調査量は 海外出張
土地選定 委員会等 を入れて 2700 万 くらい決った (詳細は下に)

調査量内訳

1) 土地選定に伴う諸経費事項

(1) 地質, 地形 および 環境の調査

(2) 用地確保に関する調査

候補地 (1) 野辺山 (長野県) …… 国有地

(2) 木曾地区 (長野県) …… 村有地

(3) 本栖湖附近 (山梨県) …… 県有地

(4) 須賀川附近 (福島県) …… 国有地

2) 装置の構造に関する調査

3) エレクトロニクス 関係の調査

4) 計画に対する全般的な検討調査

5) 諸資料量 および 雑費

所要額 27,171,900 円 (当年)

運営委員会 議事録

1) 新旧委員会のひきつき

2) 運営方針について

今年度のシンポ「干渉計による天文学」の内容は干渉計でどんな観測を行うか
45m望遠鏡とどうsupplementするか等に関連とあく。

プログラム準備世話人 森本 甲斐 石黒 小川。

シンポ開催場所の世話 東京天文台宇宙電波部。

3) 会費名簿について

改訂は今回は見送って訂正表ですます。

宇電懇会計報告 (74 5.13 現在)

A) 「大型宇宙望遠鏡計画」 出版費

	収入	支出	残高
会費 その他より	64,780		
出版費(科研費より10万円その他)		5,300	
宇電懇会計へ繰り入れ		11,780	
計	64,780	64,780	0 //

B) 宇電懇会計

	収入	支出	残高
前年度より繰り入れ	16,160		
出版費より	11,780		
雑収入 (カンパ等)	10,044		
会費 120人分	36,000		
郵送料		23,490	
紙代		10,400	
口座開設料 印鑑		200	
振替手数料			

B) 宇電懇会計

	収入	支出	残高
前年度より繰り入れ	16,160		
出版費より	11,780		
雑収入 (カンパ等)	10,044		
会費 120人分	36,000		
郵送料		23,490	
紙代		10,400	
口座開設料 印鑑		200	
振替手数料		2,255	
小計	73,984	36,345	37,639
次年度繰越し		37,639	
合計	73,984	73,984	0

2 大型電波望遠鏡小委員会 開かれる。

別紙議事録に示すように4月27日に開かれた。最近の状況は

「学術審議会の宇宙科学特別委員会では多くの方が大型電波望遠鏡計画を推して下さっており 東大側でも前向きに検討して下さっているとうかがっています。」

3 周波数保護問題 別紙参照。

4 会員移動

石田 享 (電波研鹿島) 退会
船川 謙二 () 入会
荒井 賢三 移動 東北大→熊本大理物理

5 49年度分会費 (300円) 同封の振替にて至急お願いし可。

※事務局が空電より名入理に抄写しました。これより2年周するしく。
旧住所は 464 名古屋市中千種区不老町 名大理物理 宇電懇事務局
振替は今までと同じく 名古屋 41832 宇電懇事務局です。

周波数保護問題

田中春夫

49.7.17.

1. OHバントの危機

5月30日の電波技術審議会・第1部会・第3小委員会において、いま宇宙開発事業団で開発中の静止気象衛星(GMS)の雲画像伝送回線1681.6 MHzの電波が、1660~1670 MHzのOHバントに混信を与えるという問題があることを初めて知った。現在の計画によると 10^4 Jansky 位の強さになる。日本でも45m鏡が実現すれば早速問題になるが、特に日本の衛星が Parkes に障害を与えることになるほど重大である。またこの計画は、GARP (Global Atmospheric Research Project) の計画で、米国2、ESRO、ソ連、日本各1で5つの静止衛星を同時に使用することになるため、全世界をカバーする大問題である。IUCAF はまだ気づいていないと考えたので、BPJ Chairman の Smith に私から通報すると共に、森本氏からも各主要観測所に情報を流した。IUCAF では早速行動をとり、7月15日から行なわれている CCIR の総会に対処した。国内的には、GMS の当事者とよく話し合っており、バントの中を狭めたり、フィルターを入れるなどして混信を軽減するなどを当面考えるということになるものと思う。

2. どのように要求をおくべきか

IUCAF では、line の急増に対して保護を求める際、とうとう全部を握ち出すわけにはゆかないので、要求をどこにいったらよいか各国に質問状を出した。日本としては、東京天文台と相談の上、現状と将来計画を述べ、それに対する希望を出すに止めた。大変難しい問題である。

宇電懇 運営委員会 及び 大型電波望遠鏡準備WG.

開催のお知らせ

日時 7月27日(土) 10.30 ~ 5.00

場所 東京天文台会議室

日時 昭和

会場 日本学

出席者 田中
宮本

欠席者 頼田

議事

1. 田中委員長
日本学術会議
の才2回
その席上
1) 当面の建
2) 国立機
等が話し合
2. 大沢東京
本計画の
機関で運営
あることか
よって本計
施設という
この方針
で積極的に
一方、学
大沢東京天
おこの委員
ことになっ
この報告
さらに全

日本学術会議，天文学研究連絡委員会

大型電波望遠鏡小委員会議事録

日時 昭和 49 年 4 月 27 日 (土) 9 時 45 分 ~ 10 時 30 分

会場 日本学術会議 第 4 部会議室

出席者 田中(委員長)，大沢，末元，古在，赤羽，森本，田原，
宮本，小川，

欠席者 駿目^(在外)，海部^(在外)，高津，早川，川尻，

議事

1 田中委員長よりの報告

日本学術会議，長期研究計画を，将来計画検討小委で「日本学術会議の勧告した研究所等の設立のための準備状況について」の第 2 回懇談会」が，2 月 16 日に開かれた。

その席上 大型電波望遠鏡に関して

- 1) 当面の建設と同時に将来の形も考える必要のあること
 - 2) 国立機関を考えるなら，その条件等についても考える必要のあること
- 等が話し合われた。

2 大沢東京天文台長の経過報告と討議

本計画の技術的業務は東京天文台が担当し，別の国立共同利用機関で運営を行なうという従来の方針は，緊急には実現困難があることがわかった。

よって本計画の緊急性というのを考えると，東京天文台付属施設という方針に変更せざるを得ない。

この方針のもとに東大当局と話し合った結果，この件について積極的に検討される状況になっている。

一方，学術審議会に「宇宙科学特別委員会」が設置され

大沢東京天文台長が専門委員として加わることになっている。なおこの委員会では大型電波望遠鏡の設置に関する審議されることになっている。

この報告に関して種々の討論があり，計画の早期実現のためさらに全員の協力を申し合わせた。